

第3部

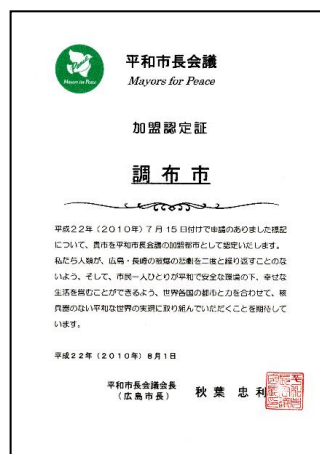
資料

広島平和派遣以外にも市では
平和に向けた様々な取組を行って
います。

へいわしゅちょうかいぎ 平和首長会議

平和首長会議は、加盟都市相互の緊密な連帯を通じて核兵器廃絶の市民意識を国際的な規模で喚起するとともに、人類の共存を脅かす飢餓・貧困等の諸問題の解消さらには難民問題、人権問題の解決及び環境保護のために努力し、もって世界恒久平和の実現に寄与することを目的とした国際的な組織です。

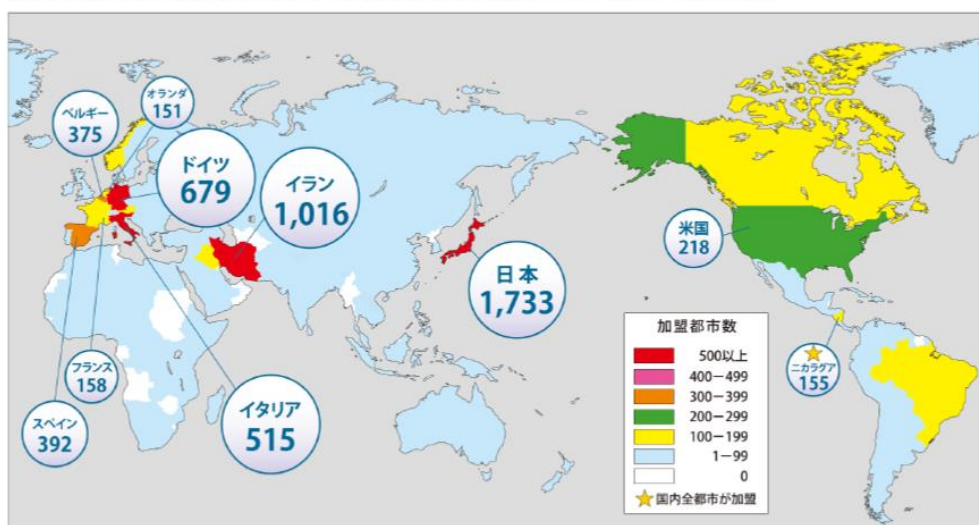
平成22年8月1日、調布市は「平和市長会議※」に加盟いたしました。調布市は加盟国として、原爆展をはじめとする様々な平和祈念事業を実施しています。



※(平成25年8月6日付けで「平和首長会議」に名称変更)

▲ 加盟認定証

【平和首長会議加盟都市分布図(加盟都市数上位10か国とその都市数)】



加盟都市数(令和2年3月1日現在)
163か国・地域 7,869都市 うち国内加盟都市数1,733都市
(平和首長会議ホームページから参照・抜粋)

平和首長会議

「平和なまち」絵画コンテスト

平和首長会議は、同会議が定める行動指針「2020 ビジョン」の中の具体的な取組として「平和教育の充実」を掲げ、加盟都市における平和教育の更なる充実を図ることを目的として「平和なまち」絵画コンテストを行っています。

調布市内で募集を行ったところ、2作品ご応募がありました。



もりた まゆ
森田 真由さん(6歳)

青空の下、色んな国の人と手をつないで仲良し。



いば みほ
射場 光歩さん(6歳)

大好きなブランコと海とみんなが優しい気持ちになるマンションがある町。

そうしたら虹がかかってニコニコのお日さまが出てきました。ちょうちょも飛んでいるよ。みんなが安心して住める町です。

2020 ビジョン (核兵器廃絶のための緊急行動)

目的

目標年次である2020年に向け、平和首長会議は、2017年8月に長崎市で開催した第9回総会において、世界恒久平和への道筋として「核兵器のない世界の実現」と「安全で活力のある都市の実現」の二つに取り組んでいくことを掲げた「平和首長会議行動計画(2017年-2020年)」を策定し、これに基づく取組を推進しています。

主な取組

- ・国連・各国政府に対する要請
- ・加盟都市の拡大
- ・リーダー都市を中心とした地域グループによる活動の展開
- ・被爆樹木二世の苗木の配付
- ・青少年「平和と交流」支援事業
- ・「核兵器禁止条約」の早期締結を求める署名活動
- ・平和首長会議原爆ポスター展の開催
- ・**平和教育の充実**

平和教育の充実

子どもたちによる“平和なまち”絵画コンテスト

平和首長会議では、加盟都市における平和教育の更なる充実を図ることを目的として、全加盟都市の6歳以上15歳以下の子どもたちを対象とした“平和なまち”をテーマにした絵画コンテストを実施し、12点の受賞作品を決定しました。



受賞作品
ロシア・クラスノダール市
アナスタシア・
スコベルツィナさん(9歳)
街の上を飛ぶ天使は、その街に住む人を励まし、元気にします。

(説明文、絵は平和首長会議ホームページから抜粋)

平和都市宣言

「調布市非核平和都市宣言」「調布市国際交流平和都市宣言」

調布市は、昭和58年9月27日に市議会による「調布市非核平和都市宣言」、平成2年3月23日に市による「調布市国際交流平和都市宣言」を宣言しています。これらを踏まえ、市では世界平和に向けて、様々な平和祈念事業に取り組んでいます。



市役所前庭には、この2つの宣言と調布市民憲章を記載したパネルを設置しています。外国の方にも読んでいただけるよう、宣言には英文を併記しています。

調布市非核平和都市宣言

世界の恒久平和は人類共通の願望である。核兵器保有国間で核軍拡競争が激化している今日、核戦争を回避し、原水禁の恐れのない世界を確立することは、緊急かつ重大な課題である。

わが国は、戦争による世界唯一の核被爆国として、また平和憲法精神からも核兵器の廃絶と軍備縮小の推進に積極的な役割を果たさなければならぬ。したがってわが調布市は、非核三原則の完全実行を願い、厳粛に非核平和都市を宣言する。

昭和58年9月27日 調布市議会

Chofu City Declaration We Are a Peaceful, Nuclear-Free City

Everlasting world peace is a shared desire of all humanity. The arms race between countries possessing nuclear weapons has intensified. The existence of nuclear war and the possibility of world peace as a result of nuclear war are a urgent and serious challenge.

As the only country in the world that has experienced nuclear bombing, this city was also based on the spirit of its postwar constitution, it must play a prominent role in eliminating nuclear weapons and promoting disarmament.

Accordingly, the City of Chofu, basing the total implementation of the Three Non-Nuclear Principles, hereby declares itself with great solemnity to be a peaceful, nuclear-free city.

September 27, 1993
Chofu City Assembly

調布市民憲章

悠久の流れをたええる多摩川、武蔵野の森に囲まれた白鳥の深大寺。この自然と歴史に恵まれたまち調布にも急速な都市化が自然の破壊と環境の悪化をもたらしています。恒久の平和を願う私たち市民は、この自然をよみがえらせお互いの生活を尊重し、私たちひとりひとりの手で人間味あふれる「新しいふるさと調布」をつくるため、この市民憲章を定めます。

昭和51年3月25日

1 私たち市民は、自然を破壊と汚染から守り、緑と海と青空に恵まれたまちをつくります。

1 私たち市民は、つねに自己を磨き、個性的で活潑な文化豊かなまちをつくります。

1 私たち市民は、お互いに約束を重なり、公共の施設を大切に、社会意識の向上につとめ、さわやかなまちをつくります。

1 私たち市民は、お互いに約束を重なり、公共の施設を大切に、社会意識の向上につとめ、さわやかなまちをつくります。

1 私たち市民は、ひとりひとりを尊重しあい、すすんでまちづくりに参加し、市民中心のまちをつくります。

調布市国際交流平和都市宣言

世界には たくさんの国があり
その国には それぞれに人が生きている
赤ちゃんもいれば お年寄りもいる
言葉や文化の違いはあっても
みんな仲良く生きたいと思う

調布の人も そうでない人も
日本の人も そうでない人も
いま 私たちは世界にとびつ
いま 私たちは世界の人を巡る

地球には たくさんの人が生きている
みんな平和に生きたいと思う
さつとそうなる さつとできると
私たちは 宣言する。

平成2年3月23日 調布市

Declaration of Chofu City, An international and peaceful city

There are many countries in the world and in many people live. There are people of all ages and babies to old are. Although we have differences of language and culture. All people hope to be good friends and to live in peace.

Regardless of whether language

People of Chofu or not

People of Japan or not

We now embrace the world to promote mutual understanding.

We now embrace the people from all over the world.

Many people live on this Earth.

Everyone wants to live in peace.

We do not care about all over the world will come to us.

Now, let's embrace the world and make a peaceful world.

March 23, 1990 Chofu City

その他平和祈念事業の紹介

ピース・レターちょうふ

夏の平和祈念事業の紹介及び平和に関する情報を発信するため、「ピース・レターちょうふ」を毎年7月頃に発行し、市立小・中学校の児童・生徒に配布するとともに、公共施設に配架しています。



戦争体験映像等記録

戦争体験者に自身の戦争体験を語っていただき、その様子を映像に記録したDVDを作製し、図書館、市内小中学校等に配布しています。

令和元年度は、ちょうふピースメッセンジャー2019による市特別職への報告会の様子も併せて収録しています。



国際交流平和基金

世界の様々な文化への理解を深め、多文化共生の地域社会づくりを推進するための国際交流事業並びに恒久平和の維持及び発展のための平和祈念事業を、円滑かつ効率的に推進する資金に充てるため、調布市国際交流平和基金を設置しています。基金の原資は、市の予算による積立や、皆様から寄せいただいた寄付金などです。

平和祈念事業への活用事例としては、「ピース・レターちょうふ」の作成、「広島平和派遣事業」等があります。

寄附のご協力を頂ける場合は、調布市文化生涯学習課にご連絡ください。

【問い合わせ】文化生涯学習課 042-481-7139

国際交流平和基金のHPはこちら



おわりに

「令和元年度調布市中学生広島平和派遣報告書」をご覧いただきありがとうございます。ました。

令和元年度の広島平和派遣事業では、平和記念公園や平和記念資料館だけではなく、臨時野戦病院となった似島も見学しました。派遣期間中は、現地の方に説明していただきながらの見学や、被爆体験者の講話を聴く等、学校では学ぶことができないことをたくさん教えていただき、ピースメッセンジャーにとって、とても有意義な時間になったことと思います。

この報告書を通して、ピースメッセンジャーが実際に広島市へ行き、見て、聞いて、学び、感じた戦争の悲惨さや平和の尊さ、また、派遣を通して抱いた新たな想いが、多くの皆様の手に渡ることを願っています。

戦争を知らない世代が増加していく中、悲惨な戦争を風化させることなく、二度と戦争を繰り返さないよう、平和の尊さや命の大切さを次世代へと受け継いでいくため、今後も平和祈念事業を実施してまいります。

協力

- ・NPO法人ちようふこどもネット
- ・調布市原爆被害者の会 河野 良彦 様
- ・広島平和記念資料館 被爆体験証言者 國分 良徳 様
- ・広島市観光ボランティアガイド 森 幹男 様
- ・広島市似島臨海少年自然の家 重末 貴文 様

参考資料

- ・広島市公式ホームページ
- ・広島広域観光情報サイト「ひろたび」ホームページ
- ・平和首長会議ホームページ
- ・広島市似島臨海少年自然の家 発行
平和学習資料～似島と戦争～

表紙について

似島(にのしま) 広島県広島市

広島港から約3km。戦時中は検疫所として使用された。

原爆投下後は、臨時野戦病院となり広島市内からたくさんの負傷者が運ばれ、多くの方が亡くなった。

現在は林海学校の利用の他、戦争の遺跡を巡る学習の場として利用されている。



刊行物番号
2019—270

令和元年度調布市中学生広島平和派遣報告書

発行日：令和2年3月

発行：調布市

編集：生活文化スポーツ部文化生涯学習課

〒182-8511 調布市小島町2-35-1

電話：042-481-7139(直通)

FAX：042-481-6881

E-mail：bunsin@w2.city.chofu.tokyo.jp
